第２章２節

助産師国家試験の状況設定問題の出題内容・形式の分析および評価と作問への提言

～ 問題分析とフォーカスグループインタビュー調査を通して ～

聖路加国際大学　片岡　弥恵子
首都大学東京　安達　久美子
東京医療保健大学　潮田　千寿子
静岡県立大学　石川　紀子

研究要旨

過去３年間の助産師国家試験状況設定問題 105 問の中から、正解率及び識別指数から「良問」と「改善により良問になり得る問題」として 11 状況 27 問を抽出し、分析を行った。研究参加者は 11 名であり、所属の養成施設は大学院５名、専攻科２名、専門学校４名であった。分析対象問題 27 問のうち、正解率及び識別指数から判断した良問は９問、改善により良問になり得る問題は 18 問であった。出題の意図の適切性は、良問では 88.9%、改善により良問になり得る問題では 72.2%が明確と判断された。難易度にて適切であると判断されたのは、良問では 77.8%、改善により良問になり得る問題では 16.7%であった。正答肢、誤答肢とも、その根拠は解剖生理学などに基づくものが多かった。状況文については、情報は適切と評価された問題は 69.3%であった。判断に必要だが不自然な情報はある問いは 25.9%であった。状況文の洗練、誤答をより魅惑肢とする工夫が必要である。

１．研究目的

本分担班は、過去３年間の助産師国家試験状況設定問題の内容の適切性、習熟度や問題構成、出題形式等の妥当性について、助産師学校養成所にて教育に携わる教員を対象にフォーカスグループインタビューを行い、出題内容・形式の分析および評価を行った。それにより、助産師国家試験における新たな出題方法や形式、出題内容に関する課題を明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

１）問題分析

はじめに、過去 3 年間の助産師国家試験の状況設定問題全 46 状況 105 問（第 100 回 35 問、第 101 回 35 問、第 102 回 35 問）の中から、正解率，識別指数をもとに「良問」あるいは「改善により良問となり得る問題（以下、改善問題）」を、11 状況 27 問を抽出した。

２）フォーカスグループインタビュー

(1)対象

研究参加者は、助産師学校養成所の教員とした。リクルートは、機縁法を用いて研究参加者を抽出した。その際、助産師学校養成所として、大学院、大学、専攻科、専門学校など養成所が偏らないようにした。抽出された助産師養成所の当該分野の教員宛に、インタビュー開催日を提示した上で同意書，同意撤回書、インタビューで検討予定の問題、インタビューガイドを同封し送付した。

(2)データ収集方法

参加意思を示した研究対象者に対し、フォーカスグループインタビューで検討予定の 6～8 問とインタビューガイドを予め送付し、事前に内容を検討し、職場同僚の意見も尋ねておくよう依頼した。

抽出した 11 状況 27 問題について、フォーカスグループインタビューで意見を収集した。

フォーカスグループインタビューは、1 グループあたり

表1 抽出した問題一覧

問題番号	良問/改善	国家試験問題			設問文
1	良問	100	午前	50	破水が明確でない場合の最も適切な診断法を問う。
2		100	午前	51	臨床的絨毛膜羊膜炎の判定ができるかを問う。
3		102	午前	42	若年で未受診妊婦の、合併症など緊急対応を要する状況を理解し、異常への対応ができることを問う。
4		101	午後	42	健康診査で発育評価に必要なカウプ指数を算出・評価し、4ヵ月児の発達評価ができるかを問う。
5		101	午後	43	乳幼児に起こりやすいウィルス感染症や細菌感染症に関する知識を問う。
6		102	午後	41	妊娠期の対象の経過や臨床場面に応じた助産師の相談技術(カウンセリング)・支援方法についての理解を問う。
7		102	午後	53	療養援護に関する知識を問う。療養援護とは、妊娠高血圧症候群、糖代謝機能異常他、妊娠・出産に伴う異常で入院して治療の必要がある低所得の妊婦に対して医療援助を行う制度である。
8		101	午前	47	NCPRガイドライン2015で示されたアルゴリズムに沿って、デブリーフィング(振り返り)で適切にアセスメントできるかを問う。
9		101	午前	49	新生児一過性多呼吸の合併症としての動脈管開存症の児のケアをする際の観察法について、基本的な理解を問う。
10	改善により良問となり得る問題	100	午前	52	地域（助産所）にいる助産師の産後のアセスメントを問う。
11		100	午前	53	ネグレクトの児童虐待の可能性に対する助産師の対応で適切なものを問う。
12		102	午前	41	若年で未受診妊婦の、妊娠のハイリスク状況を理解し、発症した合併症の診断ができることを問う。
13		102	午前	43	身体的侵襲を伴う、若年で経済的自立ができない産婦への支援で適切なものを問う。
14		101	午後	44	乳幼児の心理社会的特徴と行動上の特徴として食事と栄養に関する知識を問う。
15		102	午後	39	妊婦とパートナー双方を対象とした出産準備支援の実施に関する理解を問う。
16		102	午後	40	出産準備教育によって対象者(集団)の出産への意欲が高まったかどうかを評価する視点を、対象者間のコミュニケーションから得る助産師としての診断技術を問う。
17		102	午後	52	働く女性の健康にかかわる法律の基礎的知識を問う。
18		100	午後	36	思春期の無月経の原因のひとつである多嚢胞性卵巣症候群の病態について問う。
19		100	午後	37	多嚢胞性卵巣症候群の月経不順に対するホルモン治療について問う。
20		100	午後	38	多嚢胞性卵巣症候群の女性が妊娠を希望した場合の卵巣刺激法について問う。
21		100	午後	48	最終月経から分娩予定日を算出するネーゲレ概算法の知識を問う。
22		100	午後	49	妊娠初期の睡眠の特徴の理解を問う。
23		100	午後	50	車で里帰りするときの指導の知識を問う。
24		101	午前	48	臨床症状とレントゲン所見から新生児一過性多呼吸との診断と、その看護についての基本的な理解を問う。
25		101	午前	52	災害発生下での分娩時の対応に関する理解を問う。
26		101	午前	53	災害時における産褥婦の避難の適切な対応を問う。
27		101	午前	54	医療行為との因果関係が特定できない母体死亡の発生に対する対応を問う。

1名の研究協力者がファシリテータとなり、インタビューガイドに則って各試験問題(設問)についてインタビューを行った。1グループあたり、6～8問について尋ねた。インタビュー内容は、難易度、明確性、作問意図の合致度などについてであった。インタビューは、2019 年 10 月～2020年1月に実施した。

⑶分析方法

インタビューの内容は録音ならびに筆記で記録し、録音データのテープ起こし内容と筆記録をデータとして、質的記述的に内容分析を行った。

分析シートの各項目に関して、問題数とパーセントを算出した。

⑷倫理的配慮

聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号:19-A030)。

３．研究結果

研究参加者は11名で、所属の助産師学校養成所は、大学院5名、大学1名、専攻科1名、専門学校4名であった。年齢は、30歳代2名、40歳代2名、50歳代6名、60歳代1名であった。教員としての経験年数1年～34年であった。教育機関の所在地は、関東地区8名、中部地区3名であった。

１）問題分析

①分析した問題

分析した問題の一覧を表1に示す。

②分析対象問題（表 2）

分析対象問題 27 問のうち、9 問（33.3%）が良問であり、18 問（66.7%）が改善問題であった。タキソノミーは、Ⅱが最も多かった。出題の意図の適切性は、良問では 88.9%、改善問題では 72.2%が明確と判断された。難易度にて適切であると判断されたのは、良問では 77.8%、改善問題では 16.7%であった。

表2. 問題分析の結果　　分析対象問題数合計 27

問題数	数	(%)
a:良問	9	33.3
b:改善により良問となりうる問題	18	66.7
a、b以外の問題	0	0
合計	27	100

タキソノミー	a:良問		b:改善問題		合計	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)
Ⅰ	1	11.1	3	16.7	4	14.8
Ⅰ'	0	0	2	11.1	2	7.4
Ⅱ	6	66.7	7	38.9	13	48.2
Ⅲ	2	22.2	6	33.3	8	29.6
合計	9	100	18	100	27	100

出題の意図は適切か	a:良問		b:改善問題		合計	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)
明確	8	88.9	13	72.2	21	77.8
曖昧	1	11.1	5	27.8	6	22.2
合計	9	100	18	100	27	100

難易度は適切か	a:良問		b:改善問題		合計	
	数	(%)	数	(%)	数	(%)
適切	7	77.8	3	16.7	10	37.0
不適切	2	22.2	15	83.3	17	63.0
簡単すぎる	2		10		12	
難しすぎる(高度な知識が必要である)	0		5		5	
難しすぎる(設問文が難解で理解が難しい)	0		0		0	
合計	9	100	18	100	27	100

※改善問題＝改善により良問となりうる問題

③正答肢に関する評価（表 3）

正答肢について、その根拠は①事実（解剖・病理生理学、薬理学）に基づく知識が最も多かった。難易度は、「不適切」が 74.5%であった。難易度が不適切な選択肢においては、簡単すぎるが最も多かった。また、正答肢が基本的知識そのものになっている選択肢が 25.8%であり、基本的知識がなくても選択できるものが 32.2%あった。

表3. 正答肢に関する評価　　正答肢数(31肢)

正答肢を選ぶために必要な基礎的知識の根拠は以下のいずれにあたるか	数	(%)
①事実(解剖・病態生理学、薬理学)	11	35.5
②研究的に確かめられたエビデンスがある知識	0	0
③②ではないが、広く認められた理論であり、教科書に記載されている	7	22.6
④②ではないが手順等として教科書に記載されている(慣習・経験的知識)	4	12.9
⑤法令や制度、綱領として成文化されている(慣習・経験的知識)	5	16.1
⑥①～⑤には当たらない患者の希望・心理・倫理に関する知識	4	12.9
合計	31	100
難易度は適切か	**数**	**(%)**
適切	11	35.5
不適切	20	64.5
簡単すぎる	10	
難しすぎる(高度な知識が必要である)	7	
難しすぎる(設問文が難解で理解が難しい)	2	
難しすぎる(その他)	1	
合計	31	100
正答肢が出題の意図における基礎的知識そのものになっていないか	**数**	**(%)**
なっていない(適切)	23	74.2
なっている(不適切)	8	25.8
合計	31	100
正答肢は基礎的知識がなくても選択できるようになっていないか	**数**	**(%)**
なっていない(適切)	21	67.8
なっている(不適切)-語尾だけで分かる	1	3.2
なっている(不適切)-病名だけで分かる	0	0.0
なっている(不適切)-その他	9	29.0
合計	31	100

④誤答肢に関する評価（表 4）

誤答肢については、①事実（解剖・病態生理学、薬理学）が根拠となっている肢が 29.9%と最も多かったが、手順等として教科書に記載されているものも 21.8%であった。出題の意図との一致は、86.4%が適切であった。難易度は不適切が 59.1%であり、簡単すぎるが最も多かった。誤答肢の中で基本的知識がなくても選択できるものは 31.8%あった。

表4. 誤答肢に関する評価　　誤答肢数(88肢)

誤答を除くために必要な基礎的知識の根拠は以下のいずれにあたるか	数	(%)
①事実(解剖・病態生理学、薬理学)	27	30.7
②研究的に確かめられたエビデンスがある知識	6	6.8
③②ではないが、広く認められた理論であり、教科書に記載されている	14	15.9
④②ではないが手順等として教科書に記載されている(慣習・経験的知識)	19	21.6
⑤法令や制度、綱領として成文化されている(慣習・経験的知識)	10	11.4
⑥①～⑤には当たらない患者の希望・心理・倫理に関する知識	12	13.6
合計	88	100
出題の意図と一貫しているか	**数**	**(%)**
適切(一貫している)	76	86.4
不適切(一貫していない)	12	13.6
合計	88	100
難易度は適切か	**数**	**(%)**
適切	36	40.9
不適切	52	59.1
簡単すぎる	29	
難しすぎる(高度な知識が必要である)	18	
難しすぎる(設問文が難解で理解が難しい)	5	
合計	88	100
誤答肢は基礎的知識がなくても選択できるようになっていないか		**(%)**
なっていない(適切)	60	68.2
なっている(不適切)-語尾だけで分かる	4	4.6
なっている(不適切)-病名だけで分かる	1	1.1
なっている(不適切)-その他	23	26.1
合計	88	100

⑤状況文に関する評価（表 5）

基礎的知識に照らして、正答を判断するために提示されている情報は適切と評価された問題は 70.4%であった。判断に必要だが不自然な情報はある問いは 25.9%であった。現実の実践では判断指標としてセットで収集されるであろう情報があった問いは 1 問であった。正答肢以外の選択肢を成立させる、または魅惑的にするための情報がない問が 74.1%であった。

表5. 状況文に関する評価　　状況数（27問）

基礎的知識に照らして、正解を判断するために提示されている情報と内容は適切か	数	（%）
適切	19	70.4
不適切-多すぎる	3	11.1
不適切-不足している	5	18.5
合計	27	100
判断に必要だが不自然な（現実的ではない）情報はないか	**数**	**（%）**
ない	20	74.1
ある	7	25.9
合計	27	100
問いの正答を導くために必須ではないが現実の実践では判断指標としてセットで取集されるであろう情報はあるか	**数**	**（%）**
ない	26	96.3
ある	1	3.7
合計	27	100
正答肢以外の選択肢を成立させる、または魅惑的にするための情報はあるか	**数**	**（%）**
ない	20	74.1
ある	7	25.9
合計	27	100

２）フォーカスグループインタビュー（表 6）

出題の意図の明確性については、ほとんどの問題が明確であると判断された。しかし、改善問題には、曖昧である、意図と合っていないと考えられる問いもあった。具体的には、出題の意図を反映している肢が 1 つだけであったり、意図を示した文が不明瞭であったり、修正が必要と指摘があった。また、難易度は、難しすぎるものと簡単すぎるものがあった。難しすぎる問いは、実習では経験することが少ない疾患の診断及び治療、教科書に掲載されていても参考程度の位置づけである、深読みすると難しくなるなどがあげられた。実習では経験しない可能性が高くても、臨床的に重要なものは難易度が高くも入れた方がよいのではないかという意見もあった。児心拍数陣痛図（cardiotocography：CTG）の判読に関しては、判断が難しいものは避け、明らかなものの方が適しているという意見が多く出された。逆に、簡単すぎる問いは、専門的知識がなくても回答できる問題が多く、また消去法で確実に回答できる問いがあるとの意見があった。正答肢を選ぶ、あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確である問いが多く、助産師基礎教育の教授内容から逸脱している問題は少なく妥当であると評価された。

具体的な改善点としては、状況設定の説明を時系列でわかりやすく記載すること、状況の説明をできるだけ端的に示すことがあげられた。画像の問題の出題は望ましいが、画像に答えがある場合があり、問題自体の難易度が下がってしまう。できるだけ学生が自分で判断できるように、胎盤の場所など示さなくてもよいとの意見があった。

インタビュー全体を通しては、いくつかの提案がなされた。問題の種類によっては、どのようなテーマにしても回答が同じになってしまうものもある。例えば、地域母子保健の分野で、「保健師と連携する」が答えとなっている問題が多い。臨床でも事例性が高い場合は、対応が一律ではなく個別性がある。したがって、サポートや連携という言葉が入っている選択肢となってしまう。このようなテーマが国家試験の問題として必要なのかという議論も必要かもしれない。また、事例における対応が現場での実際の対応と異なっている問題がある。教科書的に示されている支援と実際が異なる場合があるため、問題作成のときによく吟味し検討する必要があるのではないかとの意見があった。特に母乳育児について、その対応は実際に助産師、施設によって方針が大きく異なる場合がある。学生は実習を行った施設の方針が印象に強くあり、迷いが生じることが危惧される。ガイドラインなどの標準的ケアと実践でのケアのギャップが大きいものについて、国家試験の問題としては熟考が必要であろう。最後に、回答肢の作成において、魅惑肢を作成するのは容易ではないが、良問作成に向けては課題だとの意見があった。

４．考察

全体として問題の質は高いとの意見が多かった。特に良問については、識別指数が高く、実習で経験した後、必要な知識について復習したり、アセスメントやケアについてのリフレクションにより思考を深めた場合に正しく回答ができる問題であった。一方、改善が必要な問いは、正解率が 100%に近く、一般的な知識で回答できてしまう場合が多かった。出題の内容によっては、選択肢を作成することが難しいことも理解できるが、さらなる工夫が必要であろう。フォーカスグループインタビューの研究参加者は、様々な教育機関の教員であったが、教育機関による意見の相違は大きくなかった。したがって、本研究の結果は偏っておらず妥当であると考えられる。また、状況設定は適切であっても、正答肢の適切性に問題があるものもあった。実際の臨床場面で話す内容として現実的ではない、実際は臨床で用いる支援・ケアではないという意見があった。現実的な状況、回答肢であるかどうかは、よく吟味する必要がある。改善策については、状況文の洗練、問題作成者の作成能力を上げるために、良問及び改善問題の分析を行うことが提案された。

助産師の国家試験として、出題基準からまんべんなく出題するよう努力されているが、アセスメントやケア技術などの実践能力については、ペーパーテストではなく、OSCE 評価の方が適しているとも考えられる。今後は、医師の臨床実習後 OSCE 実施を踏まえ、助産師国家試験の方法を含め最も適したものを検討していく必要がある。

５．結論と今後への提言

良問の要素を教員間で共有することは、教育者及び問題作成者の両者にとって有益であると考える。状況設定については、できるだけ実習で出会う可能性の高い状況で標準化された支援やケアを設定し、状況文は状況を時系列でわかりやすく示す必要がある。

表6. 助産師 フォーカスグループインタビュー結果

設問					必修問題・状況設定問題共通					
No	第〇回	午前午後	問題番号	「良問」「改善」の別	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ，あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨床において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
1	100	午前	50	良問	明確	適切			逸脱していない。	商品名では知っていても,検査成分までは知らない学生が多いと思われる。一見難しい問題のようだが、消去法で回答できる。妊娠期の実習ではチェックPROM（商品名）やエラスターゼの検査を経験していないことがほとんどだろう。しかしこの二つの検査は臨床では必須知識であるため、学習しておく必要がある。改善点はない。
2	100	午前	51	良問	明確	適切			逸脱していない。	別冊のCTG所見が臨床的には「要注意」な微妙な波形である。選択肢2の胎児機能不全と迷う学生もいる。もう少し正常波形に近づける。あるいはAさんは血小板が減少しているので、HELLPなどの選択肢を入れてはどうかと考えられる。
3	100	午前	52	改善問題	明確	適切			逸脱していない。	問題文が長すぎるのでもう少しまとめてはどうか。問題文の最初の4行（次の文を読み～）で正答が導き出せる。選択肢3にも回答が集まったのは、産後6週目の帝王切開後の悪露が褐色であることを、異常と判断したのではないか。実際は6週目頃はほとんど消失している。教科書には明確に記載がない。産後4週くらいに設定すれば異常ではない。設定を産後6週くらいにすると良い。
4	100	午前	53	改善問題	明確	不適切；簡単すぎる			逸脱していない。	この種の問題は保健師と連携するや、サポート体制が正答になっている場合が多い。助産師の国家試験問題ではあるが保健師の問題と類似している。このように臨床でも事例性が高い場合は、対応が一律ではなく個別性があるので、問題にすることが難しい。したがって、サポートや連携という言葉が入っている選択肢を正答にせざる得ない。診断や判断は問題にしやすいが、対応に関してはエビデンスが明確ではないので国試としての適切性に疑問が残る。 この事例では、2週間後に母乳外来を予約しているが、サポート体制がない状態で、フォローを2週間あけるか疑問である。2週間は、支援していなかったように受け取られるので、「気になって、5日後に電話訪問した。それから家庭訪問して～」としてはどうか。2週間空けば、こうなることはわかっていたのではないか。出題の意図は、ネグレクトへ可能性への対応だが、産後うつもあると考えられる。
5	102	午前	41	改善問題	明確	不適切；簡単すぎる			逸脱していない。	・画像に答えが書いてあるようなもので簡単すぎる。児の体重を軽くして、選択肢に「FGR」としてはどうか。あるいは、超音波画像に「胎盤」を示さないとし、自分で判断させてはどうか。
6	102	午前	42	良問	明確	適切			逸脱していない。	・出題の意図を変える必要がある。
7	102	午前	43	改善問題	曖昧	不適切；簡単すぎる			逸脱していない。	・21歳の学生であれば、入院時点で両親への連絡を促すのではないか。学生にせず会社員でも良かったと思われる。緊急手術を予測して同意をとるにあたってもパートナーか両親に連絡すると思われる。Aさんの発言から、両親への連絡よりも愛着形成を促す対応がより大事な関わりとも考えられるので、選択肢に加えるとよい。出題の意図と選択肢が合っていないと思われる。
8	101	午後	42	良問	明確	適切	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・テキストの勉強でわかる典型的な内容である。改善は不要である。
9	101	午後	43	良問	明確	適切	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・誤答肢5はウイルスではないため、他のウイルスで湿疹の出るものや、時期が違うものなどで工夫するのもよい。
10	101	午後	44	改善問題	曖昧	不適切；簡単すぎる	常識的に考えれば回答が可能であるが、根拠は明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・誤答肢4は否定形であり、また内容も選択されない。肯定形とし、眠前の授乳時間の延長を勧める等を入れてみてはどうか。
11	102	午後	39	改善問題	明確	不適切；簡単すぎる	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・誤答肢2がナンセンス肢である。魅惑肢が必要である。

表6. 続き

設問					必修問題・状況設定問題共通					
No	第〇回	午前午後	問題番号	「良問」「改善」の別	①出題の意図は明確か	②難易度は適切か	③正答肢を選ぶ，あるいは誤答肢を除くために必要な知識について根拠は明確か	④設問は臨床において必要な知識を問う問題となっているか	⑤看護基礎教育の教授内容から逸脱していないか	⑥改善すべき内容と具体的にどのように改善したらよいか
12	102	午後	40	改善問題	明確	不適切；簡単すぎる	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・対象の言葉でなく、アンケート項目を問う。 もしくは、設問文がマッサージに主眼を置いているので、もう少しぼやかした方がよい。
13	102	午後	41	良問	曖昧	不適切；簡単すぎる	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・帝王切開術の説明が聞きたいのか、それに伴うことが聞きたいのか、追加するほうがゆらがない。 ・誤答肢4が説明部分と「必要ない」と言い切る部分で、ややナンセンス。
14	102	午後	52	改善問題	曖昧	不適切；簡単すぎる	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・状況として記載するか、本人の言葉を前のほうに記載する。
15	102	午後	53	良問	明確	適切	明確である。	必要な知識である。	逸脱はしていない。しかし、年収額については参考表に記載されている程度であり、難易度は高い。	・4択にして、年収額を解答としない。
16	100	午前	28-18-7	改善問題	明確	不適切；難しすぎる	明確である。	必要な知識である。	基礎教育内容としては少し難易度が高い。	・難易度をさげ、多嚢胞性卵巣症候群が解答となるような設問にする。
17	100	午前	28-18-8	改善問題	明確	不適切；難しすぎる	明確である。	必要な知識である。	基礎教育内容としては少し難易度が高い。	・授業で取り扱うよく起こる疾患にする。 無月経の時に起こることが考えられる治療法とする。
18	100	午前	28-18-9	改善問題	明確	不適切；難しすぎる	明確である。	必要な知識である。	基礎教育内容としては少し難易度が高い。	・挙児希望の場合に行われる検査などにする。
19	100	午前	28-24-1	改善問題	明確	不適切；簡単すぎる	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・難易度を上げる。超音波診断からの予定日などにする。
20	100	午前	28-24-2	改善問題	明確	適切	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	
21	100	午前	28-24-3	改善問題	明確	不適切；簡単すぎる	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・誤答肢がやさしすぎるため選択肢を変更する。
22	101	午前	47	良問	明確	適切	明確である。	必要な知識である。	逸脱していない。	・状況文において、時間経過がわかりにくい。臨床では、時系列で状況が示されている。時間と状況をセットで示すとわかりやすい ・回答肢は、アセスメントというより、蘇生処置である。
23	101	午前	48	改善問題	曖昧	不適切；難しすぎる	明確である。	必要な知識である。	正しく診断し、適切な治療を問うのは、難易度が高い。	意図は「診断」であるため、症状とx線所見からどの疾患が考えられるかを問うのが妥当である。
24	101	午前	49	良問	明確	不適切；難しすぎる	明確である。	必要な知識である。	新生児一過性多呼吸の合併症として急性心不全の症状の知識は、難易度が高い。	出題意図自体の難易度が高い。
25	101	午前	52	改善問題	曖昧	適切	常識的に考えれば回答が可能であるが、根拠は明確である。	必要な知識がなくても回答できるのではないかと思われる。	逸脱していない。	出題の意図を明確に記述する必要がある。
26	101	午前	53	改善問題	曖昧	不適切；簡単すぎる	常識的に考えれば回答が可能であるが、根拠は明確である。	必要な知識がなくても回答できると思われる。	逸脱していない。	一般的な知識で回答でき、消去法でも正答が導き出される。魅惑肢が必要である。
27	101	午前	54	改善問題	明確	適切	明確である。	医療事故調査制度については、理解している必要があり、必要な知識である。	逸脱していない。	正答肢として、まず医療事故調査の説明が必要であろう。

表6. 続き

設問					状況設定問題のみ				
No	第〇回	午前 午後	問題 番号	「良問」 「改善」 の別	⑦選択肢が出題の意図の原則そのものとなり、個別状況が不要ではないか	⑧正答肢が状況に関する知識なくても選択できるようになっていないか	⑨設問文は連問ではなく単問の形式で実践能力を評価できているか	⑩状況文は現実的かつ多すぎではないか	⑪問題の情報量と回答に要する時間の関係は適切か
1	100	午前	50	良問	必要である。	なっていない。	単問で評価できる	適切である。	適切である。
2	100	午前	51	良問	必要である。	なっていない。	単問で評価できる	適切である。	適切である。
3	100	午前	52	改善問題	必要である。	知識がなくても回答できる簡単な問題である	単問で評価できる	多すぎである	情報量が多い
4	100	午前	53	改善問題	必要である	知識がなくても回答できる簡単な問題である	単問で評価できる	多すぎである、文章は整理できそう。	この手の問題は情報量は必要
5	102	午前	41	改善問題	問題文を読まなくても超音波画像だけで答えられる。胎盤と子宮口が示されているのでより簡単。当然、胎盤のことだと思って選択肢を選ぶ。	なっていない。	単問で評価できる	適切である。	適切である。
6	102	午前	42	良問	出題の意図と選択肢が合致していないのではないか？出題の意図に「合併症などの緊急対応」とあるが、選択肢の中に合併症は、選択肢の4のみ。	なっていない。	単問で評価できる	適切である。	適切である。
7	102	午前	43	改善問題	必要である。	常識で答えられる	実践能力は評価できない	適切である。	適切である。
8	101	午後	42	良問	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
9	101	午後	43	良問	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	正答肢はテキスト上、もっと高熱であるように記載されている。ただ、この内容から解答は可能であると考えられるので、不自然すぎるということはない。	適切である。
10	101	午後	44	改善問題	意図が離乳の時期なのか、人工乳追加の可否なのか。	可能性はある。	単問で評価できる。	母親の母乳継続希望の有無も書いたほうが良い。	適切である。
11	102	午後	39	改善問題	必要である。	可能性はある。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
12	102	午後	40	改善問題	あまり必要ではない。	なっている。他は消極的な内容である。	単問で評価できる。	ほぼ正答肢に導く内容ばかり書いてある。	適切である。
13	102	午後	41	良問	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
14	102	午後	52	改善問題	本人の言葉がそのまま正答となっている。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。

表6. 続き

設問					状況設定問題のみ				
No	第〇回	午前 午後	問題 番号	「良問」 「改善」 の別	⑦選択肢が出題の意図の原則そのものとなり、個別状況が不要ではないか	⑧正答肢が状況に関する知識なくても選択できるようになっていないか	⑨設問文は連問ではなく単問の形式で実践能力を評価できているか	⑩状況文は現実的かつ多すぎではないか	⑪問題の情報量と回答に要する時間の関係は適切か
15	102	午後	53	良問	年収額が記載されてれば、不要かもしれない。また、入院費の不安に対し、年収額が正答である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
16	100	午前	28-18-7	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
17	100	午前	28-18-8	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	家族に関する情報がなくてもよい。	適切である。
18	100	午前	28-18-9	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
19	100	午前	28-24-1	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	知識としては必要であるが、現在最終月経からの診断は現実的ではない。	適切である。
20	100	午前	28-24-2	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
21	100	午前	28-24-3	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
22	101	午前	47	良問	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
23	101	午前	48	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
24	101	午前	49	良問	必要である。	逆に心不全の症状を選択するという意味では容易に選択できる。	前問で一過性多呼吸と診断できていない場合は、難しい。	適切である。	適切である。
25	101	午前	52	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	適切である。
26	101	午前	53	改善問題	必要である。	なっていない。	単問で評価できる。	適切である。	短時間でできる。
27	101	午前	54	改善問題	必要である。	誤答肢は、魅惑肢となっている。	状況設定問題であるが単問	状況文が長いがこれまでの経過について正常であることを示すためには必要である。	適切である。